

令和2年1月31日（金）

令和元年度「学校安全総合支援事業」全国成果発表会

「自分の命は自分で守ることのできる」 児童生徒の育成



秋田県教育庁保健体育課

秋田県の現状

【災害安全】

- ・ 日本海中部地震や東日本大震災からの時間の経過とともに、震災の記憶が風化し学校安全に係る取組の優先順位が低下することが危惧されている。

【交通安全】

- ・ 学校の統廃合による通学路の変更、遠距離化、降雪による道路環境の悪化等への的確な対応が必要である。



秋田県の取組

学校安全総合支援事業

地域連携
安全・安心
推進事業

湯沢市立
山田小学校
山田中学校

通学路安全
推進事業

鹿角市内
7小学校

学校安全総合支援事業

【地域連携安全・安心推進事業】



教職員の資質向上

- 1 学校安全指導者養成
研修への派遣
- 2 先進地の視察
- 3 研修会、講演会の開催

災害安全教育

- 1 被災地視察
- 2 関係機関との連携
- 3 専門家との連携

教職員の資質向上

学校安全指導者養成研修へ参加



災害安全指導者研修会で実践発表



湯沢市生徒指導研修会で実践発表



山田小・中学校教職員対象の講話会



災害安全教育

防災学習館の活用 (地震体験や煙中体験等)



気象台と連携した授業 (気象災害への対応)



県総合防災課や見守り隊と連携した授業 (安全マップづくり)



民間企業と連携した授業 (地震発生時の対応)



災害安全教育

県・市の防災部局、地域住民、小学校等と連携した
避難所開設訓練



山田町立山田中学校との
交流も行った被災地視察



安全発表会



部活動ごとに災害発生時の
行動について話し合い



地域連携安全・安心推進事業の成果

- ◆自主防災アドバイザー等の専門家を活用した教育活動を取り入れたり、中核教員の資質向上を図り、校内研修等を充実させたりしたことで、形骸化しがちであった訓練や各種教室等を、児童生徒が自ら考え判断し、行動する主体的な活動へと変化させることができた。
- ◆地域等と連携した体験的な安全教育を実施できたことで、児童生徒の学びを「分かる」「知っている」から「できる」に深めることができた。

学校安全総合支援事業

【通学路安全推進事業】



通学路交通安全対策

- 1 合同点検
- 2 登校時間帯の点検
- 3 危険箇所対策協議
- 4 危険箇所の改善

交通安全教育

- 1 警察官の講話
- 2 通学路映像の活用
- 3 歩行環境シミュレータの体験
- 4 通学路安全対策アドバイザーの講話
- 5 通学路安全マップの作成

通学路交通安全対策

合同点検



登校時間帯の点検



危険箇所対策協議



危険箇所の改善



交通安全教育

警察官の講話



歩行環境シミュレータの体験



通学路安全対策アドバイザーの講話



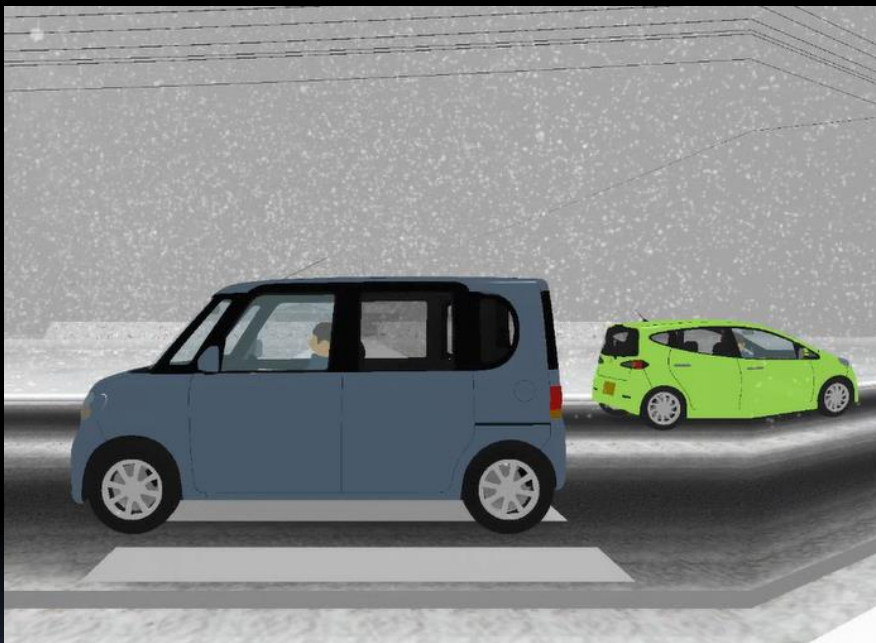
通学路安全マップの作成



歩行環境シミュレータ「わたりジョーズ君」とは

- ◆秋田大学と秋田県の「横手精工株式会社」が共同開発したものです。
- ◆三面スクリーンにCGの模擬道路を再現し、実際に横断しているような感覚で道路横断中の危険を体験できます。
- ◆体験者の身体運動・動作のタイミングを測定して、歩行能力や判断能力を確認でき、リプレイ映像で安全な横断方法を身に付けることができます。

歩行環境シミュレーター 「わたりジョーズ君」



CG例



実施映像

通学路安全推進事業の成果

- ◆危険箇所の手合点検や安全対策の提案等に対し、通学路安全対策アドバイザーが的確な助言をすることで、具体的な対策がまとまり、通学路の危険箇所の円滑な改善につながった。
- ◆歩行環境シミュレーターや通学路安全対策アドバイザーの活用、通学路安全マップの作成など、児童が実際に体験したり考えたりする安全学習を総合的に実施したことで、危険予測・回避能力の育成につながった。

まとめ

地域等との連携・協働

中核教員の育成

専門家の活用

情報共有と発信

安全教育の充実

「自分の命は自分で守ることのできる」
児童生徒の育成